



ホームページアドレス <http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/chikushakyo/tourin/index.html>

第63号
 人口 42,233人
 世帯数 21,576世帯
 (令和4年1月1日現在)

【発行】
 東林地区社会福祉協議会
 相模原市南区相南1丁目10番10号
 ☎ (042) 705-3315
 FAX (042) 744-5194



40段上の「ゴミ集積場」へ

前回に引き続き、東林フレンドリーの会の活動を紹介します。
 東林駅周辺にはたくさんの方のマンションが建ち、また上鶴間には急勾配な坂道が多いため、以前からその地区に住む高齢者の方から『足腰が弱り、ごみ捨てや買い物をする際の昇り降りが大変で困っている。サポートをしてもらいたい』などのお声を受け、令和元年10月、地域の

地域の方で
東林フレンドリーの会
 サポート活動

私たちは、相模原市が推進する「シニアサポート活動」で介護予防を目的として設立された有償ボランティアグループです。



寄せられたたくさんの温かいお手紙

週3回のゴミ出しのサポートに入っている方の中には自宅玄関先に出ているゴミ袋にスタッフへ向けてお礼の手紙を貼ってくださっている方もいます。「コロナ禍で中々お会いする機会が限られていますが、このような「温かい声」

感謝のお手紙も…

有志の方々が集まり「東林フレンドリーの会」が発足しました。現在は、スタッフ8名で、4名の方々の支援を行っております。当会は相模原市社会福祉協議会や東林第1地域包括支援センターとも連携し、センターから当会のサポートが必要な方の依頼での支援、電球交換など日常生活でちょっとした困りごとへのサポートの二本立てで活動しています。

サポートを受けたい方や、スタッフとしてご興味、活動をしたい方がいらっしやいましたら、東林第1地域包括支援センター【電話042-740-1770】までご連絡をお願いします。

(写真＝鈴木貞、文＝樋口)

今後もシニアのサポート活動を継続していくためにも無理はせず、サポートを受ける人、サポートをする人の両者がこの地域で過ごせて良かったと人と人の繋がりを感じてもらえる活動の一助となってくれることを目標に、活動を行っていきたいと思います。

現在は、早朝のゴミ出しや買い物サポート活動がメインですが、今後は他の依頼にも対応していく予定です。ただサポート活動がスタッフの日常に負担となってしまうようだと、会としての活動の継続が困難になってしまいます。

今後の活動に向けて

にスタッフも元気を頂き活動の励みになっております。

相南1丁目にお住まいのAさんは、日頃から自分の古い先を考えて、近い将来は特養（特別養護老人ホーム）に入りたいと思うようになりました。だが、どうしたら入れるのか、また誰に聞いたらいいいのか分らず、思いきって公民館近くの地域包括支援センターを尋ねました。そこで対応してくれた係の方は特別養護老人ホームとは何か、そして入所出来る基準などについて詳しくとても親切に教えてくれました。



特養ホームとは

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）とは、常時介護を必要とし、在宅での生活が困難な高齢者に対して生活全般の介護を提供する施設です。略して「特養」とも呼ばれています。特養では、入浴、排泄、食事などの介護、その他の日常生活の支援、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行います。

入所の対象者は

有料老人ホームとの違いは、特養は社会福祉法人や自治体が運営する「公的施設」であるのに対し、有料老人ホームは主に民間企業が運営する「民間施設」です。特養ホームの1か月の費用は概ね6万〜17万円位です。

平成27年4月から、原則特養への新規入所者を要介護3以上の高齢者に限定し、在宅での生活が困難な中程度の要介護者を支える施設としての機能に重点化しています。他方で、要介護1・2の方についてもやむを得ない事情により、特養以外での生活が困難であると認められる場合など、市町村の適切な関与のもと、特例的に入所することが可能です。

申し込み方法は

施設への入所申し込みは、優先的な入所を判定する際に勘案する項目を盛り込んだ標準申込書により行います。

入所申込書は各施設に提出する



老人ホームでのおしゃべりのひととき
（肖像権に配慮してぼかしてあります）

順位の評価基準は

ことになり、その際に原則として入所希望者及びその家族等が、施設職員から入所希望者の心身の状況や病歴等、施設・サービスの内容、入所対象者、入所の必要性を評価する基準、退所基準等についての説明を受け、入所申込書の「説明確認欄」に署名を行うことになっていきます。

施設は、入所申込者全員につい

て次の4項目を点数化し、合計点数の高い順に優先順位を決定し、入所判定会議を行うこととなります。（ア）要介護度（イ）介護状況（ウ）市内居住者（本市に住民登録のある方）（エ）特記事項。ア〜エの合計点数が同じ方については年齢を重視し、年齢の高い順となります。

＜相模原市特別養護老人ホーム入退所指針より＞

その他

特養は複数個所への待機申し込みが可能です。本命の施設を別の施設に入所しながら待機することも可能です。

令和2年10月1日時点の入所待機者の状況は次のとおりです。

市内合計入所定員 113,185人
待機者 112,566人 南区入所定員 11,658人 待機者 11,117人
半年間の退所者（市内合計）504人。入所者392人であるため、概ね1年以内で入所できる状況です。

詳しいことは東林第1地域包括支援センター（042-740-7708）、東林第2地域包括支援センター（042-705-8278）へお尋ね下さい。

※東林ふくしでは、これからも高齢者問題をとりあげていきます。

車イスでの初避難訓練

自助・共助で 東林間自治会での 防災訓練

放水訓練・車イスでの 避難誘導訓練



「東林間自治会の防災訓練」が10月3日(日)に松陰公園で開催されました。

スタンドパイプを使用して放水訓練と災害時要援護者(災害時に自力では避難の困難な人、高齢者、障がい者や妊婦の方など)を想定した車イスを活用して、自治会として初めて開催する避難誘導訓練を体験しました。

大きな自然災害は、いつ来るかわりませんが「自助・共助・公助」の3つの助が大切です。

東林間1丁目の松陰公園内に防災倉庫が置いてあります。この倉庫に保管してあるスタンドパイプ



火点を狙っての放水訓練

を使用して、近くの道路に設置されている消火栓に繋ぎ、コックを開けての放水訓練です。

訓練内容は、道路のマンホール蓋を開けて①消火栓の開閉方法②スタンドパイプの設置方法③ホースの延長と管さう接続(消防用接続器具)④伝令方法と放水訓練⑤車イス(9台)での避難誘導方法です。

参加者数は、自治会役員18名、自治会会員42名、社協1名、東林男性ボランティア6名、消防関係者6名の計73名でした。

訓練の前半は、スタンドパイプを火点に向けて栓を開き放水する。この時パイプに放水開始時の反動カシヨックが出るので、

一瞬の固定維持が大切と感じました。放水作業



男ボラの指示で下り坂道を車イス操作で無事に通過



立体交差側道の凸凹道あり通過訓練の難しさを体験

は消防署の方の指導のもと、2人1組で約50名以上の方が訓練に挑み、火点に放水が当たった時、大きな歓声が上がりました。

坂道での車イス操作と 状況説明で安心向上

後半は車イスの運転操作です。

東林間自治会の各防災倉庫に置いてある車イス(計9台)を使用して訓練に活用。車イス操作は1組2名。車イス操作のガイドも1組2名の4名でチーム対応しました。

車イスに関しては、東林男ボラの中山会長から①車イスの開閉方法②操作方法・介助方法の丁寧な説明を聞き、その後、約30分程度、車イスでの操作方法③段差の乗り越え方④でこぼこ道(凸凹道)での操作⑤坂道(上り・下り)での操作を体験しました。

小田急江ノ島線の踏切の遮断機

が下りていて渡れない緊急状況を想定。線路下を通る大野南立体交差側道のスロープを利用しての訓練でした。上段差がある場合は介助ブレーキを握って前輪のキャスターをゆっくり上げる。下段差の場合はゆっくり下げるなどの細かい操作と、更に車イスに乗っている方の安心確保のため、操作前に介助者が丁寧な説明をしました。

下り坂道を操作する場合は、同乗者の声を聴いて低速で移動する。急な下り坂道では前進操作ではなく後進操作(バック)運転します。この時にはハンドルを操作する方は、後が見え難いのでパートナーの方が操作指示を行うことの重要性を知り、「丁寧な状況説明に安心感が得られました」という声を聞きました。今回の災害時の防災避難訓練で安全・安心の自助・共助の大切を十分に体験できました。

(写真Ⅱ長岡、文Ⅱ鈴木貞)

東林地区社協情報

ご協力ありがとうございました

皆様からお寄せいただいたご寄付・募金は、身近な地域でいきいきと暮らすための支え合い活動に活用させていただきます。

東林地区社会福祉協議会では、子育て世代から高齢者までが参加する居場所の運営や、福祉啓発講座・中学生に防災を伝える教室の開催、地区内で取り組む福祉活動への助成等に取り組んでいます。

今後とも皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和3年度 共同募金

- 赤い羽根共同募金運動…………… 1,985,119円
- 年末たすけあい募金運動…………… 871,636円

※街頭募金は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み中止となりました。

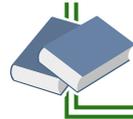
賛助会費募集結果

- 令和3年度実績額…………… 1,557,389円

ご寄付

- 個人1名…………… 1,000円

図書購入費の助成と 推せん図書 の募集



東林地区社会福祉協議会では、子どもたちに質の良い本を沢山読んでもらおうと、本購入費の助成と併せて推せん図書の募集を行っています。図書助成金額は1施設1万5千円まで。今年度の対象施設は

東林地区内の児童館2か所、児童クラブ2か所、子どもセンターの計5か所。一方「社協子ども若者福祉部会会員」から図書の推せんを求め、11団体から26冊の応募を受け付けました。推せん図書の寄贈事業は今回が初。子どもたちに

大いに喜ばれています。とりわけ寄贈に当たっては、なぜこの本を推せんするのか、またお勧めのポイントやこの本に関するエピソードなども、子どもたちに理解できる内容のメッセージ写真と併せてもらうことになっており、それが大好評でした。「本を読むといろいろなことが分るし、自分が賢くなった気がする」は、子どもたちの声。なお、募集については予算の関係上、長編のシリーズや高額な本の推せんはご遠慮いただいています。



送られてきたメッセージ

お役立ち情報

相模原市
ファミリー・サポート・センター

子育てのお手伝いをしてほしい人、お手伝いをしたい人、
お気軽にお問い合わせください

開設時間：平日 午前8時30分～午後7時
電話：042-730-3885
メール：famisapo@sagamiharashishakyo.or.jp




絵てがみ 北山 稔